

朝鮮の女性私も連行

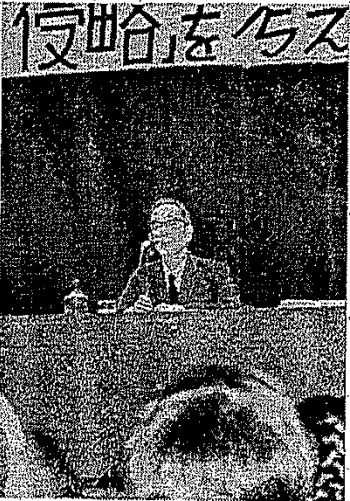
元動員指揮者が証書

元動員指揮者の証書の中で、多数の朝鮮人が誘拐されて十
九箇の一、大抵の証書は「日本軍の暴行」を

暴行加え無理やり

37年ぶり 危機感で沈黙破る

元動員指揮者の証書の中で、多数の朝鮮人が誘拐されて十
九箇の一、大抵の証書は「日本軍の暴行」を
証書の中で「日本軍の暴行」を
証書の中で「日本軍の暴行」を



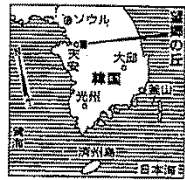
「日本軍が戦争中、犯したもっとも大きな罪は朝鮮人の慰安婦狩りだった」と語る、元動員指揮者である1日夜、大阪市浪速区の浪速解放会館で

この人は元動員指揮者である。証書の中で「日本軍の暴行」を
証書の中で「日本軍の暴行」を
証書の中で「日本軍の暴行」を

1982年
9月2日付朝刊(大阪本社版)

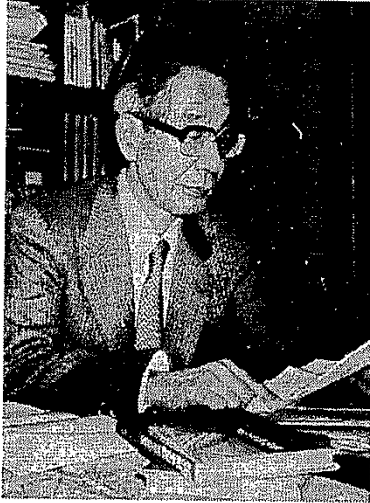
証書の中で「日本軍の暴行」を
証書の中で「日本軍の暴行」を
証書の中で「日本軍の暴行」を

韓国に謝罪の碑



土直初、韓国に謝罪の碑を建てようとする動きが盛ん
なっている。全韓戦争中、日本人の犠牲者、捕虜、慰問員、
徴用の鬼と記憶された元山口県警務課長、田代忠雄
長、吉田寛之助らの慰霊碑が、大崎二丁目
に建立される。碑の風情を記して、死んで行く多くの人々
への謝罪の気持ちが、興文に込められている。

東京の吉田さん



韓国からの励ましの手紙などを繰り返し読み、謝罪の碑への思いをはせる吉田清治さん
—東京都品川区上大崎2丁目の自宅で

「徴用の鬼」いま建立 悔いる心、現地であかす

「徴用の鬼」は、大崎二丁目に建立される。これは、全韓戦争中、日本人の犠牲者、捕虜、慰問員、徴用の鬼と記憶された元山口県警務課長、田代忠雄長、吉田寛之助らの慰霊碑が、大崎二丁目に建立される。碑の風情を記して、死んで行く多くの人々への謝罪の気持ちが、興文に込められている。

「徴用の鬼」は、大崎二丁目に建立される。これは、全韓戦争中、日本人の犠牲者、捕虜、慰問員、徴用の鬼と記憶された元山口県警務課長、田代忠雄長、吉田寛之助らの慰霊碑が、大崎二丁目に建立される。碑の風情を記して、死んで行く多くの人々への謝罪の気持ちが、興文に込められている。

1983年
10月19日付夕刊

「徴用の鬼」は、大崎二丁目に建立される。これは、全韓戦争中、日本人の犠牲者、捕虜、慰問員、徴用の鬼と記憶された元山口県警務課長、田代忠雄長、吉田寛之助らの慰霊碑が、大崎二丁目に建立される。碑の風情を記して、死んで行く多くの人々への謝罪の気持ちが、興文に込められている。



金園から励ましの手紙や電話が相次いでいる。同じ戦争加害の意識に悩んでいた人、「強制連行、初めて知りました」という中学三年生……。

「でもね、羨ましいんかではないんです。二人の息子が成人し、自分も社会の一線を退いた。もっとなんかダメージはないだろう、みたいなものを定めて公表に踏み切ったんです」

大学卒業後、旧満州国官吏から中朝航空に転じた。身元

朝鮮人を強制連行した謝罪碑を韓国に建てる

吉田清治さん



福岡県生まれ、法政大卒。昭和17年から敗戦まで山口県労務報国会動員部長。五年(原刊)など。70歳。

警察から「罪のつづかない、労務報国会で働け」と追われた。現母に生かされた。

下関は関釜連絡船の玄関口。正相の彼用はもちろん、「実家に仕送りができる」とブローカーにだまされた若者たちが次々に送り込まれてくる。しかし、内務省からは「人買払底の時局から、取り締まるな」の密命。貨車で炭鉱や土木現場へ送り込んだ。

「国家による人狩り、としかいえない。彼用が、わずか三十数年で、歴史のヤマに葬られようとしている。戦争責任を明確にしない民族は、再び同じ過ちを繰り返すのではないだろうか」

で徴役二年。出獄後、下関の炭鉱では、逃亡を図った主犯犯に身を寄せさせ、特高隊員が木刀でなかり殺される

「国家による人狩り、としかいえない。彼用が、わずか三十数年で、歴史のヤマに葬られようとしている。戦争責任を明確にしない民族は、再び同じ過ちを繰り返すのではないだろうか」

(吉田 清治記者)

1983年
11月10日付朝刊



サハリン残留韓人の遺家族を前に
上下震する吉田清治さん＝韓国忠清南
道天安市の遺郷の丘で韓国特派員等す

たった一人の謝罪

強制連行の
吉田さん 韓国で「碑」除幕式

【ソウル二十三日電】韓国忠清南道天安市の遺郷の丘で、韓国特派員等が、サハリン残留韓人の遺家族を前に、上下震する吉田清治さん＝韓国忠清南道天安市の遺郷の丘で韓国特派員等す

1983年
12月24日付朝刊

大韓民国政府は、一九八三年の秋、サハリンに強制連行された韓人の遺骸を、忠清南道天安市の遺郷の丘に埋葬し、その除幕式を、二十三日、忠清南道特派員等が、サハリン残留韓人の遺家族を前に、上下震する吉田清治さん＝韓国忠清南道天安市の遺郷の丘で韓国特派員等す

「碑」除幕式は、一九八三年の秋、サハリンに強制連行された韓人の遺骸を、忠清南道天安市の遺郷の丘に埋葬し、その除幕式を、二十三日、忠清南道特派員等が、サハリン残留韓人の遺家族を前に、上下震する吉田清治さん＝韓国忠清南道天安市の遺郷の丘で韓国特派員等す

「碑」除幕式は、一九八三年の秋、サハリンに強制連行された韓人の遺骸を、忠清南道天安市の遺郷の丘に埋葬し、その除幕式を、二十三日、忠清南道特派員等が、サハリン残留韓人の遺家族を前に、上下震する吉田清治さん＝韓国忠清南道天安市の遺郷の丘で韓国特派員等す

1983年
12月24日付朝刊

アジアの戦争犠牲者を追悼

8月15日、タイと大阪で集会

元捕虜・通訳ら参加 体験語り、平和誓い合う

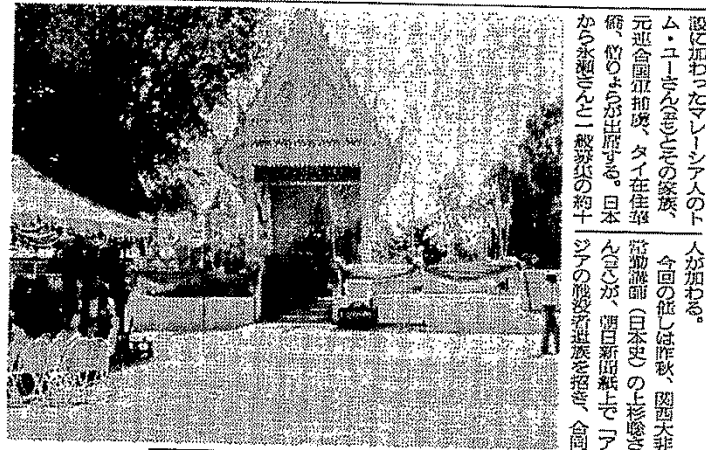
体験語り、平和誓い合う

第二次大戦で犠牲になったアジアの人々を追悼する集会が、終戦記念日の八月十五日、「死の鉄道」で多岐の森編(いぬむ)鉄道の要所、タイ・カンチャナブリと大阪で同時に開かれる。タイでは、鉄道建設で死んだ連合軍捕虜や現地労働者を追悼するため、元捕虜が建てたタイ式墓碑に、「ロームシヤ」と碑はれた語の労働者もその遺族らが来る。大阪ではタイ、蘭国、シンガポールなどからの参加者が体験談を語り、日本人とタイ人の平和を誓い合う。

集まりは「アジア・太平洋地域の戦争犠牲者を追悼する会」が主催。大阪集会は、八月十五日午前十一時から大阪市東区森ノ宮中央二丁目の「ロムシヤ」ホールで、タイ・カンチャナブリの戦争博物館、蘭国博物館、シンガポールの戦争博物館、協同博物館等協会の主催。集会は、根拠が日本軍に捕まったまま生存不明となったシンガ

ポールの新聞「南洋・島嶼聯合早報」東京特派員の岡田氏らが日本軍の強制労働者被害者の感情を伝える。日本側からは、戦争中、山口県防務顧問会下関支部(助部長として、従軍慰問所を兼ね、蘭解人の強迫進行の指揮に当たった吉田浩治(心)と千代子(心)が、シンガポールの「ロムシヤ」が体験談を語る。

「ロムシヤ」として鉄道建設に加わったマレーシア人のトム・ニーキン(心)と森編元連合軍捕虜、タイ在住華僑、約六十人が出席する。日本から来場する二般派の約十人が加わる。



設けられたマレーシア人のトム・ニーキン(心)と森編元連合軍捕虜、タイ在住華僑、約六十人が出席する。日本から来場する二般派の約十人が加わる。今回の催しは昨秋、関西大井田神社(日本史)の森編(心)が、蘭日新聞紙上で「アジアの戦争犠牲者を追悼する会」を主催することを呼びかけたのがきっかけ。上杉さんが中心になって準備を重ね、宇都宮徳島藤原、随筆家の岡部博子さん、作家の瀬川内蔵助さん(三十一人が呼びかけ人になった。上杉さんは「政府主催の企画」に反対し、民間有志で準備を進めた。日本側は、三万人を超すといわれるアジアの犠牲者は、一皮も剥かずに追悼されている。蘭国神社(森編)が「アジアの人を追悼する動きが強まり、外側人に指摘された」と反省しない」と語っている。

タイ集会への参加費用は約二十五万円。申し込みは協会事務局(06-6156-1770)へ。

1986年
7月9日付朝刊

名簿を私は焼いた

知事の命令で証拠隠滅

元動員部長証言



吉田 清治さん

戦前、山口県防務顧問会下関支部動員部長として、「被用」名目で多数の朝鮮人を強制連行した吉田清治さん（右）千葉県在住。が語った。「名簿などの関係書類をドラム缶で焼く、灰

はスロウに海に捨てた。敗戦直後の八月下旬のことだった、という。

内務次官の指示に基づき、「記念写真も含め、朝鮮人に関する資料すべて焼却せよ」という県知事の緊急命令書が、警務長あてに届いた。吉田さんは丸田日かひへ、下関警の基で、同支部であった被用関係書類をドラム缶で焼いた。六千一人一人分の名簿も含まれていた。

「強制連行の実態が明らかにならぬ、関係者は難犯になりかねない。だから、米軍が来る前に、証拠隠滅を図ったわけだ。当時、自分もそれが当然と願っていました」

防務顧問会は、戦時体制の中で炭鉱などの人手不足を解消するため、昭和十七年に全国各県の警察単位に「はらわし、防務動員」を担当した。日本国内には徴用できる人材が少なく、朝鮮人の強制連行が主な仕事だった。

吉田さんは敗戦まで約三年間、強制連行の実務責任者として七、八回、朝鮮半島に渡った。

地元の警察署員らが集積を包囲したあと、吉田さんが焚火の中心で作業中の朝鮮人男性を強引に引きずり出し、次々と護送車に乗せた。抵抗すれば木刀で殴り倒した。数千人を下関に運出した後、貨物列車に乗せ、炭鉱などに送り込んだ。「自分は戦争犯罪人。その罪

と責任は死んでも消えないですよ。強制連行の官庁資料はもはやないと願うが、企業や市町村レベルで、少しでも手がかりがないか、探すべきです」

吉田さんは戦後、炭鉱などで酷使されて死んだ韓国人の遺骨返還運動や、六年前には韓国天安市の「慰問の丘」に私費で「日本人の謝罪碑」を建立するなど、自らの戦争責任を問いつけている。

「同じような方々への朝鮮人女性を従軍慰安婦として連れ去ったことあります。当時の私は、徴用の果、とらわれて悔いを感じていました。朝鮮民族の人たちには、死後も謝罪し続けなければならぬという気持ちです。到底許されたいとは思っていませんが」



吉田清治さんは、昭和十七年、朝鮮人を徴用するために設けられた「山口県労働報国会下関支部」の動員部長になった。以後三年間、強制連行した朝鮮人の数は男女約六千人にのぼるという。

韓国の報道機関から「もし、わが国の国会で証言してほしいという要請があれば、どうしますか」と問かれたとき、こう答えた。

「私は最も罪深いことをしました。証言しろといわれれば、韓国の国民、国会に対して謝罪し、そして何でも答える義務がある。その立場を自覚していますか。」

記憶のなかで、特に心が痛むのは従軍慰安婦の強制連行だ。吉田さんと部下、十人か十五人が朝鮮半島に出張する。総督府の五十人、あるいは百人の警備といっしょになって村を包囲し、女性を道路に追い出す。木剣を振るって若い女性を殴り、けり、トラックに詰め込む。

一つの村から三人、十人と連行して警察の留置所に入れておき、予定の百人、二百人になれば、下関に運ぶ。女性たちは陸軍の營庭で軍医の手に渡り、前線へ送られていった。吉田さんが連行した女性は、少なくとも九百五十人はいた。

「國家権力が警察を使い、植民地の女性を絶対に逃げられない状態で誘拐し、戦場に運び、一年二年と監禁し、集団強姦（ごうかん）し、そして日本軍が退却する時には戦場に放棄した。私が強制連行した朝鮮人のうち、男性の半分、女性の全部が死んだと思います。」

吉田さんは七十八歳である。「遺言として記録を残しておきたい」と、六十歳を過ぎてから、体験を書き、話してきた。東京に住んでいたころは時折、旧軍人の団体や右翼が自宅に押しかけてきて、大声を出したりした。近所の人驚いて一〇番したこともある。

マスコミに吉田さんの名前が出れば迷惑がかかるのではないかと、それが心配になつた。すると、吉田さんは腹がすわつてくるのだらう、明るい声で「いえいえ、もうかまいません」といった。

従軍慰安婦

「私は最も罪深いことをしました。証言しろといわれれば、韓国の国民、国会に対して謝罪し、そして何でも答える義務がある。その立場を自覚していますか。」

記憶のなかで、特に心が痛むのは従軍慰安婦の強制連行だ。吉田さんと部下、十人か十五年二年と監禁し、集団強姦

〈島〉



従軍慰安婦を強制連行した吉田清治さんの告白が、この欄

(二月二十三日付)で紹介された。その後、たぐさんの投稿をいただいた。

去年、本紙と朝日放送が協力して進めた年間企画「女たちの太平洋戦争」にも、投稿が相次いだ。担当者と話していて気づいたことがある。それは、日本軍の残虐行為はなかったとか、公表する

などかという人の論拠には、共通する型がある、というのだ。①そんなことは見たことも聞いたこともない。軍隊、兵隊の心持でございしても、それはありえない。もし事実だとしても、それは例外で、一般化するのには不当である。なかには自己顕示欲や誇張のために、ゆがめられた話もあるだろう。

②自虐的に自国の歴史を語る。子孫たちが祖国への誇りを失ってしまう。それに、戦争が歴史を犠牲にすることは分かってきている。過去を語っても無益。早く忘れよう。③日本軍の残虐行為を知ったら、遺族は、わが父、兄弟も加わったかと苦しむだろう。そのつらさを考えよ。また、戦友は祖国のために命を捨てた。英霊を冒瀆(ほうりやく)するな。以上のように主張したい人々の気持ちはやさしくわかる。だれにも理屈だけでは動きたくない情というものがある。しかし、それだけでいいのか。自問せよ。

歴史のために

をえない。

朝日放送が投稿をもとにドラマを制作し、昨年末、朝日系列テレビ各局が放送した。劇中、高等女学校の生徒たちが兵隊の袴(ふんどし)を洗う場面があった。たちまち、抗議の手紙、電話である。

「帝國軍人が、女学生に袴を洗わせるなどという事は、断じてない。」

大阪府下に住む投稿者が、母校に保存されていた学校日誌で証拠を確認した。

「陸軍用品支廠(じよう)ヨリ依頼ノ軍用袴、洗濯作業開始」

知りたくなさ、信じたくないことがある。だが、その思いと格闘しないことには、歴史は残せない。

〈島〉

慰安婦問題

今こそ自ら謝りたい

連行の証言者、7月訪韓



吉田 清治さん

「私が慰安婦たちを朝鮮半島から強制的に連行した」と証言している千葉県在住の吉田清治さんが七月、韓国に「慰安の旅」に出る。韓国側から次々と起る

される訴訟、遅々として進まない日本側の補償は、いてもたってもいられなくなつた、という。元慰安婦たちとも対面する予定で、「残虐行為に直接かかわつた日本人が謝罪に来た、という歴史を残したい」と話している。

「山口県労働報国会下関支部」の部長になり、国家総動員体制の下、朝鮮人を軍需工場や炭鉱に送り込んだ。朝鮮半島に船で出かけては百人単位でトラックに詰め込んだ。三年間で連行、徴用した男女は約六千人にのぼり、その中には慰安婦約千人も含まれていた、という。

吉田さんは、九年前にソウルの南、天安市にある海外同胞のための墓地、一望無しの丘に碑を建てた。強制連行した朝鮮人へ謝罪の気持ちを含めたつもりだが、一人だけの除幕式では、大勢の韓国人に囲ま

れ、は声を浴びた。しかし、今回も望郷の丘で慰霊式をしたい考えた。「解放記念日」の一月前に当たる七月十五日に予定している。韓国内で慰安婦問題への関心が盛り上がっている。九年以上の「さびしき」になる経緯はできている、という。

1992年
5月24日付朝刊

元慰安婦に謝罪

ソウルで吉田さん

【ソウル12日】小田川興】太平洋戦争当時、山口県労務報国会動員部長として、朝鮮人慰安婦や軍人、軍属を強制連行したと証言

している吉田裕治さん(70)が十一日訪韓し、十二日、ソウルの韓国プレスセンタ―で開かれた太平洋戦争犠牲者遺族会の「証言の会」に出席した。東京地裁に対して補償請求を訴えている元慰安婦の金学順さん(66)の前で頭を下げて謝罪。金さんは「補償実現に力を貸さなければ」と訴えた。

1992年
8月13日付朝刊

